



学校だより

7月号

ふじのき

横浜市立藤の木小学校

校長 保科 桂子

令和7年 月 日

〒232-0061 横浜市区大岡四丁目10番1号 電話045-731-0606 FAX045-713-7916

学校教育目標

藤の学び合い 響き合い
一人一人を大切にしながら学び合う学校をめざします

「あなたが大好き」「あなたが大切」

校長 保科 桂子

今日は「おこだでませんように」（くすのきしげのり作）という絵本をご紹介します。おもいます。

「いでも、がっこうでも、いつもぼくはおこられる。」と始まります。主人公の「ぼく」は小学校1年生の男の子です。

おかあちゃんの帰りが遅いとき、妹と遊んでやりますが…

「また、いもうと、なかして！」（いもうとのくせに わがままいうからや）

「まだしゅくだいしてないの！」（いもうとと あそんでやってたからや）

休み時間にサッカーの仲間にいれてもらえず、ぼくはパンチをしてしまいます。先生が来て、ぼくだけがおこられます。

「またやったの！」（ふたりが さきに いじわる いうたんや）

「ぼうりよくはいけません！」（でも「なかまにいれてやらへん」といわれたのは、ぼくのころがもらったパンチやで）

何か言い返しても、先生はもっと怒るに決まっているからと、ぼくは黙って横を向いて怒られています。本当は「ええこやねえ」って言われたいぼくがどうするのか、そしてどんな結末になるのかというのは、ぜひ絵本を読んでみてほしいです。

無器用な主人公のように、十分説明できなかつたり、説明するのがめんどうくさくなってしまうたりする子どもは決して少なくありません。けれど、状況だけを見て子どもを怒ってしまうという場面が日常生活では起こりがちです。状況だけしか見られないのは、時間がなかつたり、余裕がなかつたり、そう思い込んでしまったりと、怒る大人に原因がありそうです。本当に怒る必要があったのでしょうか。

大切な子どもなのに、子どもが「大切にされている」と実感できるように伝えることは簡単ではないようです。学校でも家庭でもやらなければならないことは山ほどありますが、まずは「あなたが大切」「あなたが大好き」という気持ちを伝えてみてはどうでしょう。当たり前のことを言葉にするのは、意外と勇気がいるものですが、無駄なことではありません。

子どもと過ごせる時間は、人生の中ではほんの束の間です。中学校に入学してしまうと、幼児期や小学校までの濃密な親子関係は、期待できません。そして、中学生以降は、親離れや子離れも必要な時期なので、距離が遠くなるのも自然です。子どもはいずれ、成長して育っていく存在であると考え、小学生時代の今を家族として明るく、楽しく過ごすことは大切ではないでしょうか。

もうすぐ七夕。（しかも令和7年7月7日の七ならび！）願いをこめて、藤の木の子どものたちの健康と、健やかな成長を、短冊に書きたいと思います。暑さに負けず、さわやかな夏をお過ごしください。